

女子美術大学

共創デザイン学科
受験対策講座
【小論文】

河合塾 小論文科:市川 由季子

女子美術大学 共創デザイン学科 小論文対策講座

講師：市川由季子(河合塾小論文講師)

1、入門編

小論文とは何か 一文と他の違い

作文	小論文
感性	問題意識・知的関心
自分なりの鑑賞	出題意図に即した読解 *社会背景・志望分野
印象、感情	思考・論理
描写力	分析力・構成員

よい答案を書くために

1、課題文/出題者との「対話」の姿勢を大切にしよう

課題文の筆者や大学の出題者に対話するつもりで、問題に取り組む。対話とは、相手の言うことや期待することを受け止め、誠実に答えを返すことである。そのためにまずは、設問＝求められている作業に適切に対応すること。設問にはしばしば論述テーマとなるキーワードや前提となる事柄に関する説明が含まれていることがある。これらにしっかりと目を向け、慌てて解答に着手することなく、以下の手順で答案を作成しよう。

手順：設問を読む → 資料を読む → 出題意図の理解 → 答案の構想 → 設問の再確認 → 答案の作成

2、具体例に論じよう

自分の考えを伝えるためには、具体的な説明が必要だ。単にアイデアを提示するだけでなく、その理由や必要な工夫などにも言及しよう。適切なアイデアを提案するためには、自身の経験や見聞を振り返ることができるとよい。テレビなどの情報を生かすのもよい。経験や見聞を生かして適切な場面や例が挙げられるということは、注意力や観察眼、自分なりの関心や問題意識に対するアンテナが常に働いていることの証であり、それらを設問と結びつけられるということは、志望分野に対する意欲や適性、独自の学習を行っていることの証である。また、具体例の描写は単に詳しくいけばよいというわけではない。それよりも設問要求に応え、自分の主張(テーマや考察)を展開する上で必要な情報が書き込まれているか、ということ意識することが必要だ。

3、論理構成を大切にしよう

小論文では、美文・名文ではなく、考察の流れがしっかり読み手に伝わる明快な文章を書くことが大切だ。そのためには、主張と根拠、目的と手段、原因と結果など、文と文の関係をしっかりと意識し、接続詞などの適切なつなぎ言葉(なぜなら、例えば、つまり、など)を用いていること、段落を構成することが大切である。

2、実践編

・設問をどう読むか

キーワードに注目する — 「環境課題」とは—

「環境」というと、自然環境を連想しがちである。しかしここで想定されているのは、私たちを取り囲み、私たちの意識や行動に影響を与える世界、そして私たちの意識や行動によって変容する世界、そうした意味での「環境」である。その意味で、社会のあり方や文化のあり方なども「環境」である。とは言え、それでは漠然としすぎて、答案を作成するための手掛かりにならない。そこで目を向けたのが、SDGs、つまり「持続可能な開発目標」だ。ここで掲げられた17の課題に目を向けると、自分なりに取り組むべき「環境課題」を見つけることができるだろう。SDGsはこれからの世界を生きる上で重要な概念であり、常識として知っておきたい知識でもある。この機会に正確な内容を調べ、自分なりに関心を持っていくことは、小論文対策にとっても、大学での学びにとっても有意義だ。

・どう考えるか — 出題意図を受け止める —

すでに述べたように、設問は小論文試験のルールブックであり、出題者から受験生へのメッセージでもある。例題では、「地球温暖化」の対策として、二酸化炭素の排出の削減に「モノの生産・使用におけるエネルギー消費」という視点から取り組むことが求められている。設問に答えるためには、なぜ温暖化が進行しているのか、自分自身の日常生活を振り返り、考えてみよう。日常のどんな場面でもどんなエネルギーが使用されているのか、あるいは具体的なモノの生産から消費、廃棄までのプロセスにおいて、どのようなエネルギーがそれぞれ使用されているか、ということから考えるのもよい。その上で、温暖化の進行を抑える/エネルギー消費を削減するためにはどんな手立てが可能か、ということを考え、提案する。ここで重要なのは、必ずしも斬新なアイデアを提示することではない。既に実践されている取り組みと類似してもよい。大切なのは、なぜその方法を提案するのか、という着眼点や問題意識と、提示された方法との整合性であり、そこに現れる受験生の「自分らしさ」である。このことを踏まえ、問いに答えるためには、以下のようなアプローチが考えられる。

アプローチ その1

まず考えられるのは、意識や姿勢に対する働きかけだ。私たちが環境に配慮した行動をとるのは、環境問題に関する事実や、個人個人の取り組みの大切さなどを知る機会などがあつたからだ。こうした情報や機会を多くの人が共有することで、取り組みが広がり、より高い効果がある。そのための「啓発活動」や「環境教育」のあり方について提案することができるとよい(解答例1)。自分自身の教育体験や家庭・地域での取り組み、イベントやメディアなどを参考にしてもよいだろう。

アプローチ その2

日常的に消費する具体的なアイテムや身近な文化(例えばファッションや音楽や書籍など)がどのように作られ、それらを私たちがどのように購入しているかを考えることで、エネルギー排出の抑制について新しいアイデアを見つけることもできる。解答時間も分量(解答欄)も物理的な制限があるので、モノの生産から使用までの全体について論じるのではなく、そのプロセスを生産、流通、消費、廃棄に分節化し、そのいずれか(一部分)に焦点を当てて提案するとよい。フリーマーケットからインターネットまで、場面はいろいろだ(解答例2、3)。いずれの場面や過程についても、具体的な温暖化との関係に言及しながら論じよう。

・どう表現するか

取り上げる場面とアプローチが決まったら、設問と解答用紙を確認し、それぞれの項目について答案を構想しよう。ポイントは可視化、「楽しくするためのアイデア」、「達成によって実現する＝新しい生活」である。

可視化する

「可視化する」とは、アイデアに形を与え、共有可能にするということだ。共創デザイン学科は、「多様な領域の人々」との共同作業による課題解決をめざす。そのためには、異なる専門領域や関心を持つ人々が、互いにわかりやすく自分の考えを伝え合うことが必要となる。もちろん、その方法は1つではない。設問にあるように、イラスト、図、文章など、自分の得意な方法で伝えればよい。大切なのは、自分の得意分野を自覚すること、それを生かして、相手にわかりやすく表現することだ。

「楽しさ」を考える

持続可能性は、取り組みやすさと幅広い層の参加、そして継続性によって実現される。「楽しくする」のは、それらのために必要な工夫だ。年齢や性別、文化や言語の壁を越えて、より多くの人々が「楽しく」、自ら進んで参加するためには、「楽しさ」とは何かということについて、自分なりの考えを持つと同時に、自分とは異なる経験や感覚を持つ人の「楽しさ」にも想像を馳せることができるとよい。

未来を構想する

初めに述べたように、環境は私たちの行動や考え方に影響を与えると同時に、私たちの行動や影響によって作り変えられる。私たちが考えたアイデアが、より多くの人々に「楽しく」共有されることで、世界は今とはちがう顔を見せるだろう。そうした新しい世界のあり方をリアルに構想するためには、今の社会のあり方に対して、「ここを変えたい!」という自分なりの問題意識を持つこと、そしてその世界をどのように変えたいのか、そこではどんな価値観が大切にされるのか、といったことを考えられるとよいだろう。

一般選抜(A日程)

- ① 専門試験(伝達表現) 2時間
- ② 学力試験(国語・英語)
(学力試験の問題は「入試ガイド・問題集2023」をご参照ください)

一般選抜(B日程)

- ① 専門試験(伝達表現) 2時間
- ③ 面接
下部左側参照

学校推薦型選抜(公募制) 特別選抜(社会人・帰国子女・外国人留学生)

- ① 専門試験(伝達表現) 2時間
- ④ 面接
下部右側参照

① 専門試験(伝達表現)

与えられた環境課題に対し、所定用紙にその解決アイデアを可視化しなさい。可視化の方法は、図、イラスト、キーワード(簡単な単語)、文章など自由とする。

【例題】

問題

二酸化炭素は最も地球温暖化への影響度が大きいガスである。産業革命以降、化石燃料の使用が増え、その結果大気中の二酸化炭素の濃度も増加している。
二酸化炭素を排出する原因として主に、モノを生産するときのエネルギー消費・モノを使用するときのエネルギー消費が挙げられる。
地球温暖化問題を解決するために、あなたの生活の中でできる、あなたらしいアイデアを出し、その解決策が、どう解決に関わっているかわかるよう図やイラストで表現しなさい。

※注意 カラーペン、色鉛筆なども使用可とする。(色数自由)

出題意図

- 多様な領域の人々と共創して行くための基礎となる以下の力を見極めることを目的とする。
- ①情報の整理・単純化及び構造化力
- ②思考の論理的可視化力
- ③相手に伝える情熱と表現力

採点ポイント

- 出題内容の主旨を理解した上で、課題を抽出し、自分なりの視点・解決策を導くことができるか。

例1

② 解答用紙 提案タイトル: 温暖化体感型アトラクションの温暖化への認知度を向上させる体験型アトラクション

【全体に対するコメント】
温暖化による気温上昇を体験するアトラクションで危機感を促すことにより、日常生活の意識改革につながっている。
体験ドームは内部の温度上昇と連動して外観の色彩が変わり、中にいる人の状況を想像することで体験者のみならず周囲の人たちとの共感を生む。加えて、SNSを使った情報の拡散を計画している点をも評価。

【表現に対するコメント】
イラストの主人公が表情豊かで、感情面もよく伝わる。文章とイラストとのレイアウトもわかりやすい。
*解答は文章のみ、キーワードのみでも可。イラストなどを入れることは必須ではありません。

例2

② 解答用紙 提案タイトル: リジェネラティブ農法を支援し、あなたに合ったパーソライズドレシピと一緒に届けられ、有機野菜セトのサブスクリプション

【全体に対するコメント】
環境問題に感度を持ち、リジェネラティブ農法を用いたアイデアを導き出した。
「食」という基本の行為とサブスクリプション利用のサービスを組み合わせることで、ユーザー、農家、地球環境にとって持続可能な提案に結びつけている。
ユーザーが積極的にサブスクリプションに取り組めるアイデアが盛り込まれているとおおい。

【表現に対するコメント】
文章を基本としつつ、簡単なイラストを加えることで伝達力が上がっている。

・解答例と解説

解答例1（入試想定問題集）

テーマ）情報の共有＝地球温暖化問題の認知度を上げる

着眼点と方向性）「節電」は「やらされている感」が強い → どうやって主体的な節電習慣を定着させるか？
アイデア）楽しさ＝体験型学習 → アトラクションとSNSによる拡散＝「意識を持つ第一歩」

解答例2（入試想定問題集）

テーマ）持続性＝日常生活の中で無理なく温暖化に取り組む

着眼点と方向性）働き盛りの独身でも取り組める活動 → テーラーメイドの温暖化対策は可能か？

アイデア）楽しさ＝美味しさ＋健康＋手軽さ → 有機野菜のサブスクリプション＝「双方にメリット」

*リジェネラティブ農法＝有機肥料の使用などによって、土壌の二酸化炭素量を高める農法

解答例3

テーマ）ライフスタイル（使い捨て）の見直しによって、ゴミの排出量を削減する

着眼点と方向性）3Rは大切だが、面倒くさい → どうしたら楽しくゴミを減らせるか？

アイデア）楽しさ＝モノを介して人とつながる → リメイク・オンライン・サークル＝「他者への想像力」

① 問題点・社会の課題

ゴミ問題は、処理場の確保や環境汚染だけでなく、地球温暖化にも影響をもたらしている。特に近年は、ごみの処理（廃棄～運搬～焼却）による二酸化炭素の排出が増えている。廃棄物を抑制するには、資源の消費を抑制する循環型社会への転換、つまり、大量生産・大量消費・大量廃棄というライフスタイルの見直しが必要だ。

② 自分の生活の中でできる行動

ゴミの削減のために消費者としての私たちができることは、3R（reduce, reuse, recycle）を日常生活に定着させることである。しかし、使い捨ての便利さに慣れた私たちにとって、リユースやリサイクルは面倒で、身近な行動とは言えない。また、リサイクル商品はデザイン的に魅力が乏しいものが多く、よいものは値段が高い。ならば、自分たちでリメイクすれば、ゴミを減らしながら欲しいものを楽しく手に入れられるのではないか。

③ ②をより楽しくするためのアイデア

新しい洋服や雑貨を買うのは楽しいが、古着屋やフリーマーケットで買い物をするには特別な魅力がある。それは掘り出し物を見つけるという発見の面白さであり、誰かにとって捨てられないモノを引き継ぐという繋がり温かさではないか。同じように、自分が使っていたモノに誰かが魅力を感じ、その人の生活の中で生かしてくれたら幸せだろう。しかし中には、部分的に傷んでいたり、サイズやデザインに問題があつて、そのまま使い続けることが難しかったりするモノもある。だから私は、そのようなモノに新しい命を吹き込む「リメイク・サークル」を運営したい。そこでは発想がユニークな人、絵やデザインが得意な人、手先の器用な人、人集めが得意な人など、それぞれの特技を生かして参加することができる。さらに、サークルをオンライン上で運営することで、幅広い参加が可能になるだろう。

④ ③を達成することによって実現する生活

リメイクは単なるごみの削減ではなく、思い出のバトンリレーでもある。サークルの参加者が増え、年代や国籍を超えることができれば、自分が行ったことのない場所、生まれる前の時代のモノや人も出会えるようになる。そのような人とモノが持つ「物語」を他の誰かが受け継ぎながら、新しい形で使い続けるための場が身近にあれば、私たちはもっとモノを大切にすし、使い捨て中心の生活を見直すことができるだろう。また、使い続けることやリメイクを前提にした、持続可能なモノづくりも浸透することが期待される。以前の、あるいは次の使い手を思い浮かべることが日常生活の一部になることで、見知らぬ他者への想像力が鍛えられ、買い物の選択からゴミの出し方まで、私たちのモノとの付き合い方を変えることも期待される。こうした変化は緩やかに、しかし確実にゴミの排出量を、そして化石燃料の消費量を削減していくだろう。